

# その21 上島・下島

(平成9年5月1日号—第188号)

上島・下島は、淀川と船橋川、穂谷川の三川に囲まれた、現在の上島町、上島東町、牧野下島町、牧野北町の地域に当たります。地名が示すように、昔この地域は淀川に浮かぶ川中島で、生駒山系を源とする船橋川と穂谷川が運んだ土砂のたい積によってできた中洲であったと思われます。戦国時代には川島村と呼ばれ、江戸時代に上島村と下島村に分かれたそうです。

豊臣秀吉は京と大坂を最短で結ぶ文禄堤を築きました。後年、その上に京街道が整備され、上島村、下島村も多くの人々が行き交う通過地になりました。幕末



36 下島付近の京街道  
(牧野下島町)



37 船橋川

には、第14代将軍徳川家茂が京の混乱を鎮めるために、再三京街道を上り、上島村の上田家に休憩して茶代を払ったという記録が残っています。

また、旗本水野但馬守忠昌の上方知行所[かみがたちぎょうしょ]を預かる陣屋代官であった上島村の吉川惣七郎は『慶応事件記』で、鳥羽・伏見の戦いの模様を記していますが、それによると上島付近も戦いの舞台になったそうです。鳥羽・伏見の戦いで敗退し、京街道を逃げてきた一部の幕府軍は、船橋川堤に集まり、陣屋裏山に大砲を据えつけて、反撃の準備をしようとしていました。しかし、官軍の藤堂軍が攻撃し、幕府軍を四散させ、上島、下島など周辺の村々はかろうじて戦火から免れたそうです。

数多くの歴史の舞台となった上島、下島地域も今は、住宅や娯楽施設が建ち並ぶにぎやかなまちへと変わっています。